

稲沢市民病院経営強化プラン 点検・評価報告書

令和8年2月

稲沢市民病院

総括

稲沢市民病院が地域の中核病院として、継続して良質な医療を提供していくためには、健全な事業運営が不可欠であることから、総務省が令和4年3月に示した「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、当院は令和5年12月に「稲沢市民病院経営強化プラン」を策定した。

収支計画における令和6年度の実績として、医業収益のうち入院収益は前年度から増加したものの、計画値には届かなかった。外来収益についても、患者数は増加したが、収益は前年度から減少したことにより、計画値には届かなかった。

一方、医業費用については、人事院勧告による給与費の増や物価高騰による経費の増などにより、計画値を上回る結果となった。訪問看護ステーション事業については、事業収益、費用はともに計画値を上回ったが、訪問看護事業収支としては約500万円の黒字となった。

医業収益は令和5年度より増加したものの、新型コロナウイルス関連補助金の廃止による医業外収益の減少及び人件費の増などによる医業費用の増加に伴い、純損益は計画値5億3,200万円から8億4,900万円悪化の約13億8,000万円の純損失となった。

令和6年度は「断らない救急」を合言葉に救急搬送の受け入れに努め、新病院移転後最多となる3,152件の救急車を受け入れた。また、市内の16の高齢者施設と協力医療機関として連携し、入所者の方の体調不良時に対応するなど、高齢化社会を見据えた取り組みにも力を入れ始めた。

加えて、令和7年度は急性期病床の機能強化を図るため、休床中であつた3階北病棟32床を開床し、稼働病床数を200床から232床とした。また、健診受診者数を増やすために、健診センタースペースを拡充し、健診メニューを見直すなどの取り組みも始めた。

このように、経営改善に向け取り組んでいるが、病院経営は過去に例を見ないほど厳しい状況である。病院経営が厳しい状況は、全国的な現象であり、病院の存続自体が危機的状況となり、地域医療の均衡が崩れ始めている。

こうした状況を危惧し、市長自ら他市町の首長と共に上京し、約180名の首長が賛同し作成した「危機的状況にある自治体病院の存続に向けた緊急要望書」を内閣官房長官ら関係者に提出するなど、国への要望活動に取り組んだ。

国の支援策として、令和7年12月に賃上げ・物価上昇に対する病院・介護支援の交付金が支給されることが決まり、令和8年度の診療報酬改定で、平成26年度以降抑制されていた診療報酬が12年ぶりのプラス改定となっていることは、病院団体や自治体が要望活動に取り組んだ成果であると考えている。

今後は、地域医療機関との連携を図り、救急搬送患者や紹介患者を積極的に受け入れることで患者数を確保するとともに、医業費用の適正な執行により経営の安定化に努めていく。また、総合政策部秘書政策課内に新設された病院経営対策室と連携を図り、将来的な地域医療における役割を見据えた上で、持続可能な病院経営のあり方を議論していく。

取組の実施状況について（令和6年9月～令和7年11月）

1. 役割機能の最適化と連携の強化

①地域医療構想を踏まえた当院の果たすべき役割（プランP.16～P.22）

《急性期医療》

※「○」取組の成果が出た項目

○救急医療

「●」取組の成果が出なかった項目

毎朝の救急カンファレンスでは、担当医などが中心となって患者の貴重な症例を検証し、実際の対応を振り返り、良かった点や改善点を整理し、共有している。情報を共有することで、患者の治療方針の決定や研修医への知識の伝達に役立った。

また、看護師や事務員など多職種も参加し、救急の事例を多くの職員で確認することで、自分の役割が救急対応にどう貢献しているかを再認識し、教育効果だけでなく、院内の救急対応力そのものの底上げを図った。

【参考】

・救急搬送件数	令和5年度：2,594件	令和6年度：3,152件
・稲沢市消防救急搬送件数 (当院への搬送率)	令和5年度：2,139件 (30.6%)	令和6年度：2,472件 (34.5%)
・救急搬送入院患者数	令和5年度：907件	令和6年度：1,099件

○転倒骨折センター

令和4年10月に「転倒などによる骨折の治療と予防・アフターケア」までを受けられる高齢者の骨折に特化した「転倒骨折センター」を開設し、当院の急性期医療の中心の1つとして運用している。令和6年度の手術件数について、脳神経外科、整形外科ともに増加した。

大腿骨近位部骨折を起こした患者に対し、再骨折（二次骨折）を防ぐための評価・治療を行う体制を整え、令和7年度は11月までに86件の二次性骨折予防継続管理料を算定した。さらに、大腿骨近位部骨折後48時間以内の手術を評価する緊急整復固定加算を21件算定し、高齢者の予後改善に努めている。

令和7年度には、転倒骨折センター内のつなぐステーションで骨粗鬆症マネージャー（日本骨粗鬆症学会認定）、薬剤師、栄養士等による骨粗鬆症予防教室を12回開催し、94人の方が参加した。

手術件数

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
整形外科	360件	364件	440件	369件	447件 ↑
脳神経外科	301件	289件	276件	306件	324件 ↑
計	661件	653件	716件	675件	771件

○認知症対応

・令和6年8月から、認知症の方やそのご家族に対し、情緒的なサポートを提供することで地域社会からの孤立を防ぎ、認知症の方と介護者の心理的負担の軽減に寄与する認知症カフェを目指し、認知症予防のための運動（コグニサイズ）を取り入れた「ツナガロカフェ」を当院2階のレストランで開始した。毎週火曜日の午前10時から11時30分までの時間で、認知症看護認定看護師など医療スタッフが、安心して相談できる空間を提供した。（63回開催、573人参加）

・認知症看護認定看護師が講師となり、認知症サポーター養成講座を開催した。

日時：令和7年3月15日（土） 会場：稲沢市民病院2階 講堂

講師：認知症看護認定看護師 田中 三津枝

参加者：38名



●小児医療

小児科常勤医の増員に努めたが、常勤医1名からの増員には至らなかった。

【翌年度以降の取組事項等】

・転倒骨折センター開設から3年が経過し、当院の特色として定着してきている。地域から「市民病院の転倒骨折センターなら安心」と思っていただけのように、良質な医療を提供し、さらなる患者の確保に努めていく。

・小児科医の確保に向け、継続して粘り強く大学医局への働きかけを行っていく。

《急性期と在宅をつなぐ回復期医療》

○ポストアキュート、サブアキュートの受入

・他院に搬送された市民を病状が落ち着いた段階で受け入れるポストアキュートは積極的に受け入れている。当院の救急搬送率の上昇（40%）に伴い、レスパイト受入件数は減少したが、サブアキュートとして急性期治療を必要とした患者は増加した。

・令和7年6月からは、急性期病棟（41床）を地域包括ケア病棟へ変更し、現在2つの病棟（87床）で地域包括ケア病棟として急性期と在宅をつなぐ役割を果たし、11月までに他院からのポストアキュートの受入れ58件、在宅や高齢者施設からのサブアキュート・レスパイトを288件受入れた。

回復期医療

区 分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン目標値	
	実績値	プラン目標値	実績値			令和7年度	令和8年度
地域包括ケア病棟稼働率	87.2%	95.0%	86.6%	91.2%	B →	95.0%	95.0%
自宅等から入棟した患者割合	41.7%	42.0%	35.3%	84.0%	B →	45.0%	47.0%
在宅復帰率	75.6%	80.0%	74.2%	92.8%	B →	80.0%	80.0%
ポストアキュート受入件数	75件	93件	80件	86.0%	B →	95件	98件
サブアキュート受入件数	123件	93件	94件	101.1%	A ↗	96件	99件
レスパイト入院受入件数	41件	73件	39件	53.4%	C ↓	75件	77件
院内転棟 ※	334件	290件	391件	74.2%	C ↓	280件	270件

数値目標の評価基準

「S」：達成率120%以上（目標を相当程度上回り達成した）

「A」：達成率100%以上120%未満（目標を達成した）

「B」：達成率80%以上100%未満（目標を概ね達成したが、より一層の取組が必要）

「C」：達成率80%未満（目標を達成していない）

※実績が低い方が良い項目

○「ナースカー」による活動

高齢者施設の職員の方が入居者の体調異変等で困った時には連絡をいただき、必要であれば看護師が「ナースカー」と呼ぶ公用車で施設に伺い、アセスメントを行い、入居者の状態によっては救急搬送で当院に受け入れている。

令和7年4月から11月の相談件数は129件で、うち109件が救急搬送され、入院が必要な症例は102件あった。

ナースカーによる入院患者の死亡率は3.9%と通常の高齢者施設からの入院患者の平均死亡率13.9%よりはるかに低く、重症化の予防につながっていると考える。

《災害時医療》

○人材育成と訓練

- ・令和6年10月1日付けで愛知県と「愛知DMATに関する協定」を締結した。
- ・医師1名、看護師2名、情報収集・記録などを行う業務調整員1名の計4名から成るDMATを結成した。「愛知DMAT」として活動が可能であり、今後は「日本DMAT隊員養成研修」を受講していく。
- ・令和6年12月にDMAT車両を導入した。
- ・令和7年2月16日（日）開催の稲沢市総合防災訓練に参加し、DMATについての展示を行った。
- ・厚生労働省医政局登録の災害支援ナースを5名養成。災害時、愛知県の指示を受けて支援を行う。



《感染症対応（新興感染症等に備えた平時からの取組）》

○平時からの取組

- ・全職員を対象に感染対策に関する研修会を開催した。
また、職員だけでなく、委託業者に対しても感染管理認定看護師が講師となり、個別に研修を実施した。
【第1回研修】令和6年10月
インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の感染対策（eラーニング）
【第2回研修】令和6年12月
「全職員で取り組む感染対策 ～あなたの参加が重要なんです～」
講師：土井 英史氏（一般社団法人日本感染管理支援協会代表理事）
- ・令和6年度は、院内における感染症のアウトブレイクはなかった。
- ・インフルエンザ流行期に併せた発熱外来の開設や高齢者施設のクラスター発生時の介入（5件）、市内の介護施設職員への研修を行った。

②地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割（プランP. 23～P. 28）

〈地域医療機関との連携充実〉

○紹介・逆紹介の強化

・「地域医療連携ガイドブック 2025」を作成し、地域の医療機関へ配布した。

区 分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン目標値	
	実績値	プラン目標値	実績値			令和7年度	令和8年度
紹介率	40.4%	50.0%	43.5%	87.0%	B →	55.0%	58.0%
逆紹介率	55.8%	70.0%	59.8%	85.4%	B →	80.0%	90.0%

【参考】

紹介患者数（うち検査依頼紹介数）

令和5年度：9,627人（1,740人） 令和6年度：10,062人（1,762人）

紹介患者のうち入院患者数

令和5年度：1,017人 令和6年度：1,631人

逆紹介患者数

令和5年度：8,953人 令和6年度：9,384人

○地域連携活動

令和7年6月21日（土）に地域医療連携室が中心となり、「顔の見える会」として地域の開業医との交流会を開催した。「地域医療連携ガイドブック 2025」を配布し、日頃の業務における相互の情報交換など、お互いの顔を知ることによって、より交流を深めることができた。

【参加者数】

地域医療機関：51名

当院：42名（医師16名・看護師13名、事務職員等13名） 計93名

また、開業医に「市民病院に求める取組について」のアンケートを実施し、令和6年度に開業医からの要望が多かった「救急患者の受け入れ」に対して、職員一丸となって取り組んでいる。

ナースカーの取組みに合わせ、協力医療機関として協定を締結した高齢者施設は16施設と目標値の10施設から増加し、スムーズな患者の受け入れにつながっている。

○地域医療機関との連携強化

令和7年11月から時間外や休日の紹介患者の受付対応を委託先事務職員（ソラスト）から看護師長に変更したことで、滞りなく紹介患者を受け入れている。

《訪問看護ステーションの強化（在宅医療の支援）》

○訪問看護ステーション事業の強化

地域の訪問看護ステーションの活動が十分でない夜間、休日の訪問医療依存度の高い利用者の訪問を行い、目標を上回る訪問回数・利用者数となった。

令和6年度の新規介入利用者は、120人と令和5年度の110人より増加し、事業収益も83,215,558円から88,276,910円と約500万円の増となった。

利用者の望みを叶えるACP（アドバンス・ケア・プランニング）を実践し、令和6年度の在宅死率は、80.4%（45人）と年々上昇している。

区 分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン目標値	
	実績値	プラン目標値	実績値			令和7年度	令和8年度
訪問看護訪問回数	8,522件	7,150件	8,979件	125.6%	S ↑	7,150件	7,180件
訪問看護利用者数	1,153人	1,020人	1,295人	127.0%	S ↑	1,020人	1,050人

数値目標の評価基準

「S」：達成率120%以上（目標を相当程度上回り達成した）

「A」：達成率100%以上120%未満（目標を達成した）

「B」：達成率80%以上100%未満（目標を概ね達成したが、より一層の取組が必要）

「C」：達成率80%未満（目標を達成していない）

※実績が低い方が良い項目

《ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の推進》

○ACPの推進

・全入院患者に対して「私の心づもり」と称した用紙を用いて、患者の希望や退院に向けての希望について、聞き取りを行う活動を行っている。この情報を基に継続して患者の思いを聴取し、チームで共有を図っている。

・病院まつり、出前講座、市民公開講座のイベントの一角でACPチームによりACPカードゲームを行い、ACPの推進に向け、周知を図った。

・市民公開講座の場で健康な状態であってもACPの話し合いをすることについて啓発を行った。

※ACPとは・・・将来の医療及びケアについて、患者さんを主体にそのご家族や近しい人、医療・ケアチームが繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定をするプロセスのこと。



《健康づくり（予防医療）》

○健診センター事業の拡大

・令和6年度の健診センター利用人数は増加したが、収益は微減となった。

健診センター利用状況

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用人数	6,824人	6,967人	7,883人	7,796人	7,888人 

【参考】

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人間ドック	1,040人	1,301人	1,260人	1,708人	1,707人
その他健診	5,784人	5,666人	6,623人	6,088人	6,181人
収益	111,164千円	126,083千円	129,413千円	144,418千円	144,227千円

・健診センタースペースの拡充に加え、新たな健診メニュー（1Dayドック、DWIBS検査）を導入するなど健診事業の充実を図った。

○市民公開講座

市民公開講座を様々なテーマで開催し、多くの市民に参加いただくことができた。

①令和6年度第2回市民公開講座 令和6年11月16日（土）

講演：「骨粗しょう症について ～骨折をしないために～」
「骨粗しょう症と骨折 ～たかが骨折、されど骨折～」
「骨折予防体操」

講師：稲沢市民病院糖尿病・内分泌内科部長 野村 由夫
稲沢市民病院整形外科医 則竹 洋和
稲沢市民病院理学療法士 吉田 侑嗣

会場：稲沢市民病院 2階講堂

参加者：101名

②令和7年度第1回市民公開講座 令和7年7月26日（土）

講演：「肝臓・胆のう・すい臓の疾患について」
「知っていますか？早期発見が難しいすい臓がん」
「そうだったのか！熱中症予防の意外な盲点」
「上手に受けよう！超音波検査」

講師：稲沢市民病院院長 山口 竜三
稲沢市民病院消化器内科部長 青木 聡典
稲沢市民病院総合内科医 山田 陽平
稲沢市民病院放射線技師 伊藤 あゆ美

会場：稲沢市民病院 2階講堂

参加者：100名

○出前講座

令和6年度の出前講座については、多くの市民の要望に応えた結果、令和5年度の16回を上回る18回（317人参加）開催した。

市民が希望される講座はフレイル予防、AED訓練、人生会議ACPなどの講座が人気があり市民病院のPRも含め、市民に対し周知、啓発ができた。

○市民病院まつり

令和6年10月20日（日）に開催し、1,654名と非常に多くの方に来場いただき、健康への意識を高めていただくことができた。

区分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン目標値	
	実績値	プラン目標値	実績値			令和7年度	令和8年度
市民公開講座開催数	2回	2回	2回	100.0%	A	2回	2回
出前講座開催数	16回	12回	17回	141.7%	S	14回	15回
病院まつり開催数	1回	1回	1回	100.0%	A	1回	1回

自分を知り、未来をつくる。体験型イベント

第11回 稲沢市民病院まつり

体験からはじまる未来への一歩。

他にもものづくりイベントなど盛りだくさん！
※整理券の必要なブースがございます。
最新情報はホームページをご覧ください。

01 体験イベント
整理券 手術室体験
整理券 薬剤体験
整理券 心肺蘇生

02 測定イベント
【愛知県看護協会】まちの保健室
整理券 骨密度測定

03 パフォーマンス
バンド演奏
出演グループ2組！
キッチンカーなど

04

05 将来の夢イベント
整理券 医学部進路相談
整理券 ハエトリグサ

2025.10.18 SAT

【お問い合わせ先】 稲沢市民病院管理課 0587-32-2111
〒492-8510 愛知県稲沢市長東町沼100番地 http://

数値目標の評価基準

「S」：達成率120%以上（目標を相当程度上回り達成した）

「A」：達成率100%以上120%未満（目標を達成した）

「B」：達成率80%以上100%未満（目標を概ね達成したが、より一層の取組が必要）

「C」：達成率80%未満（目標を達成していない）

※実績が低い方がよい項目

③機能分化・連携強化（プランP.28～P.29）

《一宮市立市民病院との連携》

○連携体制の構築

一宮市立市民病院との機能連携については、両院の診療体制等の確認を相互で密に取り合っており連携を図ることができている。

今後は一宮市立市民病院との更なる相乗効果を生み出せる連携策を検討していく。

《稲沢厚生病院との連携》

○救急受入体制の強化

救急搬送の増加に繋げるため、市民病院と厚生病院で救急に係るアンケートを作成し、稲沢市消防本部へ調査を依頼した。救急搬送時における消防職員の率直な意見をいただき、改善に努めたことで稲沢市内の両病院の応需率は向上している。

《日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院との連携》

○救急受入体制の強化

新たな連携強化の取組みとして日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院の下り搬送に係る医療連携を図った。この連携をきっかけに相互で情報を取りあえる関係を構築している。

《山下病院との連携》

○救急受入体制の強化

新たな連携強化の取組みとして山下病院と医療連携を図った。同じ地域医療圏にある病院同士で互いに患者の受け入れなどの情報を取りあえる関係を構築している。

④医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標（プランP.29～P.30）

《医療機能に係るもの》

区分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン目標値	
	実績値	プラン目標値	実績値			令和7年度	令和8年度
救急患者数	8,946人	9,600人	9,250人	96.4%	B →	9,800人	10,000人
救急搬送件数	2,594件	2,600件	3,152件	121.2%	S ↑	2,700件	2,750件
救急搬送件数 (稲沢市消防)	2,139件	2,250件	2,472件	109.9%	A ↗	2,350件	2,450件
地域救急貢献率	30.6%	36.3%	34.5%	95.0%	B →	37.6%	38.9%
手術件数	1,515件	1,700件	1,744件	102.6%	A ↗	1,700件	1,800件
リハビリ件数	67,249件	69,000件	63,826件	92.5%	B →	70,000件	70,000件

《医療の質に係るもの》

区分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン目標値	
	実績値	プラン目標値	実績値			令和7年度	令和8年度
在宅復帰率	98.1%	98.0%	95.3%	97.2%	B →	98.0%	98.0%
クリニカルパス 使用率	35.6%	45.0%	38.6%	85.8%	B →	50.0%	55.0%
入院患者満足度	84.7%	85.0%	81.8%	96.2%	B →	85.0%	90.0%
外来患者満足度	65.7%	83.0%	72.6%	87.5%	B →	83.0%	85.0%

《その他》

区分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン目標値	
	実績値	プラン目標値	実績値			令和7年度	令和8年度
臨床研修医受入件数	9件	8件	8件	100.0%	A ↗	8件	8件
健康・医療相談件数	429件	580件	462件	79.7%	C ↓	590件	590件

数値目標の評価基準

「S」：達成率 120%以上（目標を相当程度上回り達成した）

「A」：達成率 100%以上 120%未満（目標を達成した）

「B」：達成率 80%以上 100%未満（目標を概ね達成したが、より一層の取組が必要）

「C」：達成率 80%未満（目標を達成していない）

※実績が低い方が良い項目

⑤一般会計負担の考え方（プランP.30）

○一般会計繰入金

病院事業は公営企業であり、独立採算を原則とすべきものだが、市民病院は救急医療、災害医療、感染症医療等、採算性を求めることが困難な部門の医療も担っており、今後も地域における役割を遂行していくためには、総務省が定める繰出基準に基づいた一般会計からの繰入を受ける必要がある。

令和6年度の繰入金については、計画値内の繰入とすることができた。

しかしながら、人事院勧告による給与費、会計年度任用職員の勤勉手当支給に伴う増や物価高騰による経費の増などにより、市民病院の経営状況は極めて厳しい状況にあり、令和7年度は14億3,000万円の予算を計上している。

（単位：百万円）

区 分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン計画値	
	実績値	プラン計画値	実績値			令和7年度	令和8年度
収益的収支 ※	892	821	818	100.4%	A	818	816
資本的収支 ※	279	348	346	100.6%	A	411	449
計 ※	1,171	1,169	1,164	100.4%	A	1,229	1,265

数値目標の評価基準

「S」：達成率 120%以上（目標を相当程度上回り達成した）

「A」：達成率 100%以上 120%未満（目標を達成した）

「B」：達成率 80%以上 100%未満（目標を概ね達成したが、より一層の取組が必要）

「C」：達成率 80%未満（目標を達成していない）

※実績が低い方が良い項目

⑥住民の理解（プラン P. 31）

○情報発信

- ・住民の方に分かりやすい情報提供を目指して、病院ホームページの字体や色合い、レイアウトを見直し、より見やすい構成にリニューアルした。
- ・毎月作成している病院ニュースのQRコードを市広報に掲載するとともに、市内の公共施設等にも設置し、また、市のLINEをはじめとしたSNSも活用するなど病院の取組みを広く周知することに努めた。

●モニター制度

モニター制度については、体制整備や運営方法の検討に時間を要したこと、また、患者情報の取り扱いやフィードバック体制の構築に慎重を期したことから、導入には至らなかった。

【翌年度以降の取組事項等】

- ・他病院の事例も参考にしながら、市民の意見をどのように反映するか、より効果的な仕組み作りを整理し、導入に向けて検討を継続していく。



2. 医師・看護師等の確保と働き方改革

① 医師・看護師等の確保（プラン P. 32～P. 33）

《医師・看護師の確保》

○ 医師・看護師の確保

・ 医師数については、令和6年度末で39人となり、目標の42人は届かなかったが、研修医が多様な症例に触れ、指導医による丁寧な指導やチーム医療を経験できる教育環境を整えたこと、また、医師奨学金返還支援助成金制度などの経済的な補填もあり、研修医2名が地域医療を支える人材として当院に定着したことなどにより、令和7年4月では43人体制とすることができた。

・ 看護師については、令和6年度末で231人となり、目標の240人には届かなかったが、休床中の3階北病棟を開床するため、看護修学資金貸付金の実施やインターンシップを60回（延べ170人参加）開催するなど積極的に確保に努めたことで、令和7年4月では258人体制とすることができた。

《働きやすくやりがいのある職場環境の整備》

○ 職場環境の整備

病院内の相談体制（相談員1名、臨床心理士1名）に加え、らくらくカウンセリングオフィスと契約し、院外の相談体制を整えた。

全職員対象のメンタルヘルス研修を開催した。ハラスメントの申し出に対応するハラスメント委員会も機能している。

令和6年度は、夜勤交代勤務者である看護師に対し勤務表作成ソフト（タイムリフォーマー）を導入し、休み希望の聴取、負担の軽減に努めた勤務表作りに取り組んだ。

② 若手医師の確保（プラン P. 33～P. 34）

《研修環境の充実》

○ 研修医の確保

若手医師の確保が課題として考えられる中、令和6年度・7年度の研修医確保実績としてはフルマッチすることができた。病院見学时における院長面談、指導医を含めた院内環境等が医師の卵である学生に高く評価されたと分析している。地域医療を担う若手医師を計画どおり確保できたことは中長期的な診療体制の安定化に繋がるものであり、今後も指導医・スタッフ一丸となり、地域医療を支える次世代の医師育成に邁進していく。

《卒業臨床研修評価機構（JCEP）の認定》

● JCEPの認定

医学部を卒業した学生は、ほぼ全員が研修医として臨床研修を行うことになるが、臨床研修の質を評価する団体がJCEPであり、その認定を受けていることで、研修医・研修希望者・病院見学者などの増加が見込める。

JCEPの認定に向けての検討を進める予定であったが、事務体制の整備や他病院の状況確認、関係部署との調整に時間を要し、具体的な手続きを進めるには至らなかった。

※ JCEPとは・・・Japan Council for Evaluation of Postgraduate Clinical Training
国民に対する医療の質の改善と向上をめざすため、臨床研修指定病院における研修プログラムの評価や人材育成等を行い、公益の増進に寄与することを目的とするNPO法人。

【翌年度以降の取組事項等】

・ JCEPからの認定あるいは良い評価を受けた病院は、臨床研修の質が高いと言えるものであり、研修の質を見直し、さらに良い研修を実施するためにも、認定取得に向けて院内で協議を進めていく。

③働き方改革（プランP. 34～P. 36）

●働き方改革

・ 診療機能を維持し、急進的な制度変更による現場の混乱を避けつつ、働き方改革を着実に進めていく形となった。劇的な労働時間の削減等には至っていないが、引き続き無理のない形でタスクシフトを本格化させていく。

3. 経営形態

①経営形態の考え方（プランP.37）

全国の自治体において、市民病院の深刻な経営難は自治体の中長期的な財政運営や将来の施策展開にも影響を及ぼす状況となってきた。将来にわたって持続可能な地域医療提供体制を確保するため、総合政策部秘書政策課内に今後の市民病院のあり方を検討する「病院経営対策室」を設置し、課題整理や改善方針等の整理を進めていくこととした。

4. 施設・設備の最適化

①施設・設備の適正管理と整備費の抑制（プランP.38～P.40）

《市民病院の機能充実》

○施設・設備整備

令和6年度の修繕費は前年度に比べて増加したが、「無停電電源装置用蓄電池及び消耗品取替修繕」を実施する必要があったため、当初予算に計上して計画的に実施したものであり、適切な施設管理に努めた。

医療器械等については、従前どおり保守管理を実施しながらの使用が原則であり、新規購入に際しても、医療器械等委員会において、今後係る保守費用等も踏まえて、必要性・採算性を見極め、厳選しての購入とした。

令和6年度においては、汎用一体型X線透視診断装置、超広角眼底カメラ、全自動錠剤分包機等を購入した。

②デジタル化への対応（プランP.38～P.40）

《DXの推進》

○DXに関する取組

・DX推進の一環として、「チームコンパス」を導入した。業務の可視化と効率化により看護師の業務負担を軽減し、看護師がより一層患者さんと向き合う時間を大切にできる環境を整えた。

「デジタル化への対応」に係る委員会意見

・病院のイメージアップが大事だと思うので、SNS等を活用して、病院の親しみ感をアピールしてほしい。また、医師がデータを見るためにパソコンばかり見て、患者さんの顔を見て診察してもらえないことがある。医師には、患者さんの気持ちに寄り添ってほしい。

5. 経営の効率化

①経営指標に係る数値目標（プランP.41～P.42）

《収支改善に係るもの》

区 分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン目標値	
	実績値	プラン目標値	実績値			令和7年度	令和8年度
経常収支比率	91.2%	93.1%	82.3%	88.4%	B →	96.7%	99.2%
医業収支比率	76.8%	82.7%	71.6%	86.6%	B →	85.3%	87.6%
修正医業収支比率	73.1%	80.1%	68.9%	86.0%	B →	82.7%	85.1%
不良債務比率	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	A ↗	0.0%	0.0%
資金不足比率	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	A ↗	0.0%	0.0%
累積欠損金比率 ※	25.8%	31.5%	51.3%	61.4%	C ↓	34.6%	34.5%

- ・ 経常収支比率、医業収支比率、修正医業収支比率

給与費、経費等の医業費用の増加により目標値には届かなかった。

《収入確保に係るもの》

区 分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン目標値	
	実績値	プラン目標値	実績値			令和7年度	令和8年度
1日当たり入院患者数	167人	178人	164人	92.1%	B →	186人	194人
急性期：入院患者1人1日 当たり診療収入	60,273円	65,357円	59,088円	90.4%	B →	65,303円	65,737円
地域包括ケア：入院患者1人 1日当たり診療収入	34,852円	36,000円	35,738円	99.3%	B →	36,200円	36,200円
1日当たり外来患者数	480人	502人	511人	101.8%	A ↗	499人	497人
外来患者1人1日当たり 診療収入	13,235円	14,400円	12,323円	85.6%	B →	14,466円	14,469円
病床利用率	60.2%	64.0%	58.9%	92.0%	B →	66.7%	69.7%
病床稼働率	68.0%	88.9%	66.5%	74.8%	C ↓	79.9%	83.4%
平均在院日数 急性期病棟 ※	14.2日	12.5日	12.0日	104.2%	A ↗	12.0日	11.8日
平均在院日数 地域包括ケア病棟 ※	25.2	30.0日	25.3日	118.6%	A ↗	28.0日	28.0日

- ・ 1日当たり入院・外来患者数

内科、脳神経外科等の入院患者数は増加したが、整形外科等の患者数の減少により入院患者数は目標値に届かなかった。外来患者数は多くの診療科で前年度を上回り、目標値を達成することができた。

- ・ 平均在院日数

院内全体で平均在院日数の短縮化に努めたことで目標値を達成することができた。

《経費削減に係るもの》

区 分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン目標値	
	実績値	プラン目標値	実績値			令和7年度	令和8年度
対修正医業収支比率 材料費 ※	20.0%	17.7%	19.0%	93.2%	B →	17.2%	16.7%
対修正医業収支比率 薬品費 ※	11.7%	10.2%	10.8%	94.4%	B →	9.9%	9.6%
対修正医業収支比率 委託費 ※	19.0%	16.7%	20.3%	82.3%	B →	16.2%	15.7%
対修正医業収支比率 職員給与費 ※	77.1%	69.9%	83.6%	83.6%	B →	68.1%	66.9%
対修正医業収支比率 減価償却費 ※	12.4%	11.5%	13.1%	87.8%	B →	11.1%	10.3%
後発医薬品使用割合	88.5%	88.9%	93.5%	105.2%	A ↗	89.2%	89.2%
100床あたり職員数	193.2人	202.9人	205.0人	101.0%	A ↗	207.2人	210.8人

《経営の安定性に係るもの》

区 分	令和5年度	令和6年度		達成率	評価	プラン目標値	
	実績値	プラン目標値	実績値			令和7年度	令和8年度
医師数 3月31日時点	40人	42人	39人	92.9%	B →	44人	46人
看護師数 3月31日時点	217人	240人	231人	96.3%	B →	250人	255人
医療技術者数 3月31日時点	76人	75人	79人	105.3%	A ↗	75人	78人
純資産の額	3,112,306千円	2,581,458千円	1,782,561千円	69.1%	C ↓	2,380,389千円	2,369,809千円
現金保有残高	3,595,659千円	2,101,637千円	1,885,537千円	89.7%	B →	1,518,096千円	1,204,036千円
企業債残高 ※	6,617,134千円	6,352,204千円	6,312,904千円	100.6%	A ↗	6,042,573千円	5,652,540千円

・現金保有残高

プラン策定時の見込みから約2億1,600万円の減少となり、前年度からはおよそ半減している。資金不足に陥らないように適切な資金管理に努めていく。

数値目標の評価基準

「S」：達成率120%以上（目標を相当程度上回り達成した）

「A」：達成率100%以上120%未満（目標を達成した）

「B」：達成率80%以上100%未満（目標を概ね達成したが、より一層の取組が必要）

「C」：達成率80%未満（目標を達成していない）

※実績が低い方がよい項目

②目標達成に向けた具体的な取組（プラン P. 43）

○具体的な取組

- ・令和7年4月に休床していた3階北病棟32床を開床し、受入体制を強化した。
- ・施設基準管理システムを導入し、適切な施設基準の管理に努めた。
- ・医薬品、診療材料などを複数の病院が共同で購買する共同購買の積極的な活用、診療材料の管理を行うSPD事業者との連携強化により、材料費の削減に努めた。
- ・保守対象の見直しなど委託料の節減に努めた。
- ・地域包括ケア病棟を増床し、地域の医療ニーズを踏まえた診療体制を整備した。

「目標達成に向けた具体的な取組」に係る委員会意見

- ・病院の七割が赤字、愛知県の公立病院は全部赤字。これは、人件費が増えていることに起因している。決められた法定価格が上げられない中で、人事院勧告通りに進めたら、赤字になるのは自明の理である。その中で稲沢市民病院のデータを見ていると、少しずつ改善していると思う。
- ・外来の診療単価が下がっているが、診療単価の低い診療科もあるため、そういった診療科の患者が多いと診療単価が下がる。逆に診療単価が上がっている病院では、診療単価が高い患者さんが使う薬が高くなっているため、高い薬剤費を支払うことで赤字になる。また、消費税が10%に上がっているため、高い薬剤を使えば使うほど赤字が増える。国が経営改善のために、医療費の診療報酬改定、急性期病院の入院費の改善を企画しているため、今年はそれほどの赤字にはならないのではと期待している。
- ・公立病院が、なぜここにあるのかということを考えるときに、地域住民のために残しておかなければいけない。稲沢市民病院が今後も存続するためには、市当局も努力してもらわないといけないかと思う。経営が厳しい状況であるため、病院の今いる職員1人が1.2人分の仕事をしないと厳しいと思う。